



# PC-Doctor Service Center™ 7.5

日本語版



ユーザガイド

# 目次

<b>PC-Doctor Service Centerへようこそ.....</b>	<b>4</b>
PC-Doctor Service Centerテストデバイス.....	4
多目的 USB デバイス.....	4
Service Centerループバックアダプタ.....	6
Service Centerテストメディア.....	12
PC-Doctor パワー サプライ テスター(オプション).....	12
PC-Doctor PCI POST カード.....	13
<b>PC-Doctor Service Center for DOS.....</b>	<b>16</b>
Service Center for DOS の起動.....	16
PC-Doctor Service CenterDOS版の実行.....	16
<b>PC-Doctor Service Center for Windows.....</b>	<b>19</b>
設定およびインストール.....	19
Service Center for Windows をインストールする前に.....	19
インストール概要.....	19
インストールオプション メニュー.....	19
Starting PC-Doctor Service Center .....	21
Service Center for Windows の起動.....	21
Service Center for DOS の起動.....	21
PC-Doctor Service Center for Windows の実行 .....	22
ユーザインターフェイス制御.....	22
設定エディタ.....	23
ツールメニュー オプションを使用した多目的 USB デバイスの復元.....	26
コマンドラインオプション.....	27
診断の使用.....	28
テストスクリプトの使用.....	30
システム情報の収集.....	33
印刷可能なレポートの使用.....	39
マイリンクの使用.....	43
<b>よくある質問およびトラブルシューティングに関するヒント.....</b>	<b>45</b>
Service Center for Windows のトラブルシューティングに関するヒント .....	45
ServiceCenterの正確なバージョンを使用していないと表示されるのはなぜですか	4 5
.....	4 5
Windows でのテスト結果は要調査でしたが、DOS では正常だったのはなぜですか	4 5
.....	4 5
BIOSおよびSMBIOSから収集されたシステム情報が大幅に異なるのはなぜですか	4 5
.....	4 5

テストを並列実行すると、Service Center の速度が非常に遅くなるのはなぜですか	4 5
ハードドライブパターンテストを試行すると、エラーが表示されるのはなぜですか	4 5
Service Center を実行すると、xuln.exe がインターネットへのアクセスを試行するのはなぜですか	4 5
Service Center for DOS のトラブルシューティングに関するヒント	46
「xxisinvalidvaluefortheBAswitch」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか	4 6
多目的USBデバイスを取り外すと、Service Center for DOS がシャットダウンするのはなぜですか	4 6
「Unknowncommandlineoption」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか	4 6
「OperationalerrorintheRecoveryutility」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか	4 6
RAMディスク(vdisk.sys)の使用時に、ハードドライブにアクセスできないのはなぜですか	4 6
デバイスによっては、なぜNAと報告するのですか(モデム、NIC、オーディオ、SCSI)	4 6
DiskDietテストの実行後、フロッピーディスクのコンテンツが消去されているのはなぜですか	4 7
SurfaceScanのハードディスクユーティリティの実行中に、データが削除されるのはなぜですか	4 7
SurfaceScanの読み取りテストが失敗した後も、ハードディスクドライブがエラーなしで動作するのはなぜですか	4 7
LS-120、HiFDまたはJazzドライブを検査するには、どの診断を使用すれば良いですか	4 7
多目的USBデバイス上にある空のディレクトリを削除できないのはなぜですか	4 7
詳細情報	49

## PC-Doctor Service Centerへようこそ

Service Centerへようこそ。この製品は、理想的なコンピュータ診断ソフトウェアソリューションです。Service Centerは、VAR、PC製造会社、技術者、組立工を含むPCサービスおよびサポート専門家のためのコンピュータ診断・情報収集ツールです。多数の大手PCメーカーは、世界中にある製造工場およびサービスセンター施設で同一のPC-Doctor ツールを使用しています。

Service Centerは、Microsoft Windows および DOS の両方のオペレーティングシステム向けに、ハードウェアテストおよびシステム情報収集ツールを提供します。Service Center for Windows は、簡単に操作できるインターフェイスを通して実行します。Service Center for DOS は、コマンドラインおよびバッチファイル機能へのアクセスを提供します。Service Center for DOS は、ファイルを1つもインストールせずに実行することができます。

このガイドは、Windows および DOS の両方のService Centerに関するインストールおよび使用方法、PC診断の実行方法、およびシステム情報の収集方法を説明します。

Service Centerに関する詳細については、次のPC-Doctor ウェブサイトを ご参照ください。

[Service CenterのためのPC-Doctor 公式ウェブサイト](#)

Service Center の機能およびツールは、次の3つの一般カテゴリに分かれています。

表 1 : PC-Doctor Service Centerの分類

特徴	機能
診断	ハードウェアテストは、指定デバイスが正常に動作することを確認するように設計されています。
システム情報	PCのハードウェア構成を検査し、すべてのハードウェアコンポーネントに関する詳細レポートを提供します。
スクリプト編集	完全なテストの実行を自動化するためのスクリプトを作成することができます。

## PC-Doctor Service Centerテストデバイス

Service Centerには、次のテストデバイスが含まれています。

### 多目的 USB デバイス

多目的 USB デバイスは、次の4つの重要な機能を果たします。

- Service Center for DOS を用の起動デバイス。
- LEDを使用して、システムおよびテストイベントを信号で知らせるインジケータ。
- USB ポートが正常に機能することを検査するテストデバイス。
- Service Centerの使用を認証するライセンス ドングル。

Service Centerを使用するには、多目的USB デバイスをUSB ポートに常時接続していなければなりません。Service Center for Windows を実行する場合、システムの電源を入れた後に、多目的 USB デバイスを挿入します。下記を参照。



図 1 : 多目的 USB デバイス

**⚠ 危険:** 静電気放電(ESD)は、マザーボード、コンポーネントまたは多目的USB デバイスに損失を与える可能性があります。コンポーネントのインストールは、常に ESD 制御ワークベンチで行ってください。ワークベンチが利用可能でない場合、静電気防止のリストストラップを着用するか、コンポーネントの取り扱い時に接地していることを確認してください。

Service Center の使用時に、多目的 USB デバイスは赤、黄色および緑の LED を使用して、特定の Service Center イベントを信号で知らせます。下記を参照。

多目的 USB デバイスをフォーマットしないでください。デバイスの使用ができなくなります。		ライトの色		
ステータス		赤	黄	緑
アイドル(OSからのアクセス時のみ点滅)		●	F	●
POST 失敗		●	●	○
テスト/スクリプト実行中... 1つ以上のテストに失敗		F	F	○
テスト/スクリプト実行中... 注意(応答が必要)		F	F	F
テスト/スクリプト実行中... 1つ以上のテストに警告		S	F	○
テスト/スクリプト実行中... 現在すべてのテストで正常		○	F	F
テスト/スクリプト完了—すべて正常		○	○	S
テスト/スクリプト完了—1つ以上のテストに警告		○	S	○
テスト/スクリプト完了—1つ以上のテストに失敗		S	○	○

**凡例**  
 ● = 点灯    ○ = 消灯    F = 点滅(速)    S = 点滅(遅)

デバイスの使用ができない場合、インストーラ内の USB デバイス 復元ツールをご利用ください。

図 2 : 多目的 USB デバイスの点灯信号

**⚠ 注意:** 多目的USB を最初にUSB ポートに挿入すると、多目的USB のすべてのLEDは点滅します。LED が速いペースで点滅し続ける場合または薄暗く点灯する場合は、USB ポートのバス電圧が低いことを表しています。この場合、Service Center を実行できない可能性があります。この問題が発生した場合、

多目的 USB デバイスを別の USB ポートに差し込みます(例 前部のポートから後部のポートに移動させる)。

システム起動に失敗した場合、システムを多目的 USB デバイスから直接起動し、DOS の診断を実行することができます。さらに、多目的 USB デバイスを USB ポートのテストデバイスとして使用することができます。例えば、USB ポートテストの開始時に、Service Center は多目的 USB デバイスをテスト可能な USB デバイスとして列挙します。

- 👉 **注:** 多目的 USB デバイスは、テストユニットがアイドル状態の時に黄色の LED を定期的に点滅させます。これは、システムがソフトウェア認証を確認するために、多目的 USB デバイスに定期的にアクセスするためです。

## Service Center ループバックアダプタ

Service Center は、ループバックアダプタと呼ばれる I/O ポート信号のテスト用に色分けされたデバイスを数種類提供しています。各アダプタは、次の指定ポート専用です。

色	定義
青	パラレルポート ループバックアダプタ
緑	9ピンのシリアルポート ループバックアダプタ
黒	オーディオ ループバックアダプタ
青	ネットワーク ループバックアダプタ <small>apter</small>

ループバックアダプタのテストを実行すると、テストはテスト信号またはテストデータをポートに送信し、アダプタを通してそれを「ループ」し、アダプタはそれをポートに「返信」します。テストがデータに不一致を検出した場合、または2つの信号間にエラーを検出した場合、テストは要調査とテストログに記録します。

ループバックアダプタを使用するには、ご使用のコンピュータ後部にある適切な I/O ポートに取り付け、関連テストを実行します。下記の表は、I/O ポート構成の例です。実際のポート構成には、様々な種類があります。



図 3 : 標準のバックパネルポート構成

### パラレルポート ループバックアダプタ

パラレルポート ループバックアダプタ(下記を参照)は、受信データをテストを行うパラレルポートに ループバックするように設計されています。パラレルポートループバックアダプタはすべての標準パラレルポートに適合し、色は、青です。



図 4 : パラレルポート ループバックアダプタ

パラレルポート ループバックアダプタは、Service Center for Windows でのパラレルポート ループバックテストの実行、またはService Center for DOS での**Parallel Ports External Loopback And IRQ** テストの実行に必要です。これらのテストを実行する前に、パラレルポート ループバックアダプタを25ピンのパラレルポートに取り付けます(下記を参照)。



図 5 : 標準パラレルポート

### シリアルポート ループバックアダプタ

緑のシリアルポートループバックアダプタは、Service Center for Windows シリアルポートループバックテストの実行、 およびService Center for DOS での**Serial Ports External Loopback** テストの実行に必要です。下記を参照。



図 6 : シリアルポート ループバックアダプタ

シリアルポートループバックアダプタをPCの9ピンのシリアル(COM)ポートに取り付けます(下記を参照)。ご使用の PC には、シリアルポートが1つ以上装備されている場合があります。



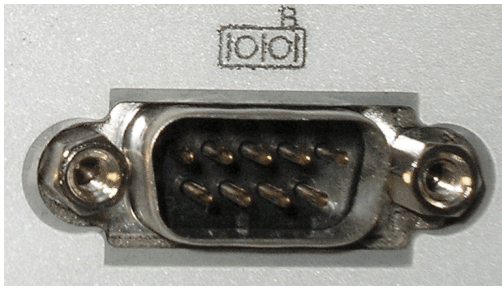


図 7 : 標準シリアルポート

#### オーディオポート ループバックアダプタ

オーディオポートループバックアダプタは黒に色分けされており、Service Center for Windows での概要オーディオテストの実行、およびService Center for DOS での**SoundBlaster** テストの実行に必要です(下記を参照)。



図 8 : オーディオポート ループバックアダプタ

オーディオポートを検索し、1つのコネクタをマイク(MIC)ジャックに接続し、もう1つのコネクタを外部出力端子またはスピーカジャックに接続します(下記を参照)。マイクおよび外部出力端子の配置は、コンピュータにより異なる場合があります。



図 9 : 5.1オーディオの標準オーディオポート構成

#### ネットワーク ループバックアダプタ

ネットワークループバックアダプタは青に色分けされており、Service Center for Windows でのネットワーク外部ループバックテストの実行に必要です(下記を参照)。



図 10 : ネットワーク ループバックアダプタ

ネットワーク外部ループバックテストの実行前に、ネットワークループバックアダプタをインストールしたネットワークインターフェイスカード(NIC)に取り付けます。ネットワークループバックアダプタは、一般的に RJ-45 コネクタとして知られる NIC ポートに直接差し込みます。

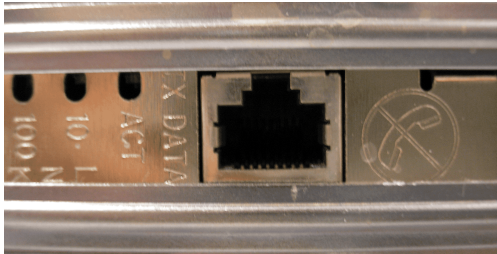


図 11 : RJ-45 コネクタとして知られる NIC ポート

#### ネットワークアダプタ速度の設定

ネットワーク外部ループバックテストを実行する前に、ネットワークアダプタを10Mbpsまたは100Mbpsに設定しなければなりません。

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。
2. ネットワーク接続を選択します。
  - a) Windows XPでは、ネットワーク接続をクリックします。
  - b) Windows のその他のバージョンは、ネットワークおよび共有センタ をクリックし、その後にネットワーク接続の管理をクリックします。
3. ネットワークを右クリックし、プロパティをクリックします。
4. 構成...ボタンをクリックします。
5. 詳細設定タブで、速度&二重通信方式プロパティの値を10または100Mbps、および半二重通信方式または全二重通信方式に変更します。
6. OK ボタンをクリックし、テストを実行します。

シリアルおよびパラレルポート ループバックアダプタの回路図

表 2: パラレルポートピン

コネクタ信号	D25ピン
Strobe/Select In	1、13
Data0/Error In	2、15
Auto FD/Paper End In	12、14
Init/Acknowledge In	10、16
Select Out/Busy In	11、17

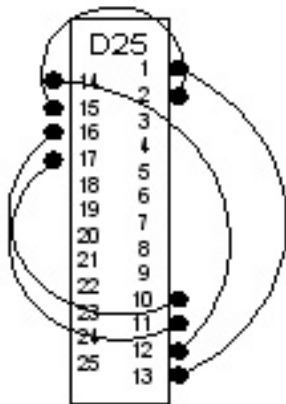


図 12: パラレルポート ループバックアダプタピンの図

表 3: シリアルポートピン

コネクタ信号	D25ピン	D9ピン
RX/TX	2、3	2、3
RTS/CTS	4、5	7、8
DSR/DTR/CD	6、8、20	1、4、6

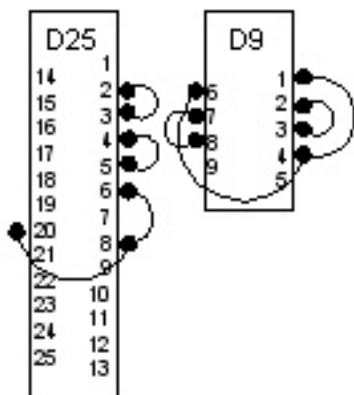


図 13 : シリアルポート ループバックアダプタピンの図

## Service Center テストメディア

Service Centerには、CD-ROM テストディスクおよび DVD テストディスクの2種類のテストメディアが含まれています。光学ドライブ上でテストを実行する場合は、適切なテストディスクを使用しなければなりません。

テストメディアの使用方法

1. テストを行う CD または DVD ドライブのドライブトレイを開きます。
2. 適切なテストメディアを挿入し、トレイを閉じます。
3. テストメディアに対応する光学ドライブテストを実行します。

## PC-Doctor パワー サプライ テスター(オプション)

PC-Doctor パワー サプライ テスターは、ご使用の電源装置および電源装置ケーブルの整合性を検査するテストデバイスです。電源装置ケーブルをテストに取り付けると、LED 系列が点灯し、電源装置またはケーブルが機能していることを検査します。下記を参照。




図 14 : PC-Doctor パワー サプライ テスター

## 20/24ピンの電源装置接続テスト

### 20/24ピンの電源装置接続のテスト方法


1. 電源装置の接続をマザーボードから切断します。
2. 電源装置を外部電源に差し込みます。
3. 20/24ピンのコネクタを通して、電源装置をテストに接続します。
4. すべてのLED ステータスライトが点灯することを確認します +5V、+12V、+3.3V、-5V、-12V、+5VSB、PG。

 **注:** -5Vの規格をサポートしていない電源装置もあります。この場合、-5VのLEDは点灯しません。

## 電源装置ケーブルのテスト

### 電源装置ケーブルの個別テスト方法

1. 20/24ピンの電源装置ケーブルを電源装置に接続したままで、4ピンのハードドライブケーブルをテストに接続し、+12V、+5VのLEDが点灯することを確認します。
2. ハードドライブケーブルを取り外します。
3. 4ピンのp4 p6/p8 ケーブルをテストに接続し、+12VのLEDが点灯することを確認します。
4. p4 p6/p8 ケーブルを取り外します。
5. 4ピンのフロッピードライブケーブルをテストに接続し、+12Vおよび+5VのLEDが点灯することを確認します。
6. フロッピードライブケーブルを取り外します。
7. SATA ケーブルをテストに接続し、+12V、+5V、および+3.3VのLEDが点灯することを確認します。

 **危険:** PC-Doctor パワーサプライテスターは、電源装置出力テスト専用で設計されています。無人の状態、テストを接続したまま放置しないでくださいこのテストは熱を生成するため、電源装置の損失および/または火事の原因になる可能性があります。

## PC-Doctor PCI POST カード

PC-DoctorのPCI POST カードは、システムが電源投入時の自己テスト(POST)を試行する際に、ご使用の電源装置接続の整合性を検査します。PC-Doctor POST カードを空いているPCI拡張スロットに接続し、システムの電源を入れると、LED系列が点灯し、電源装置接続が機能していることを検査します。下記を参照。

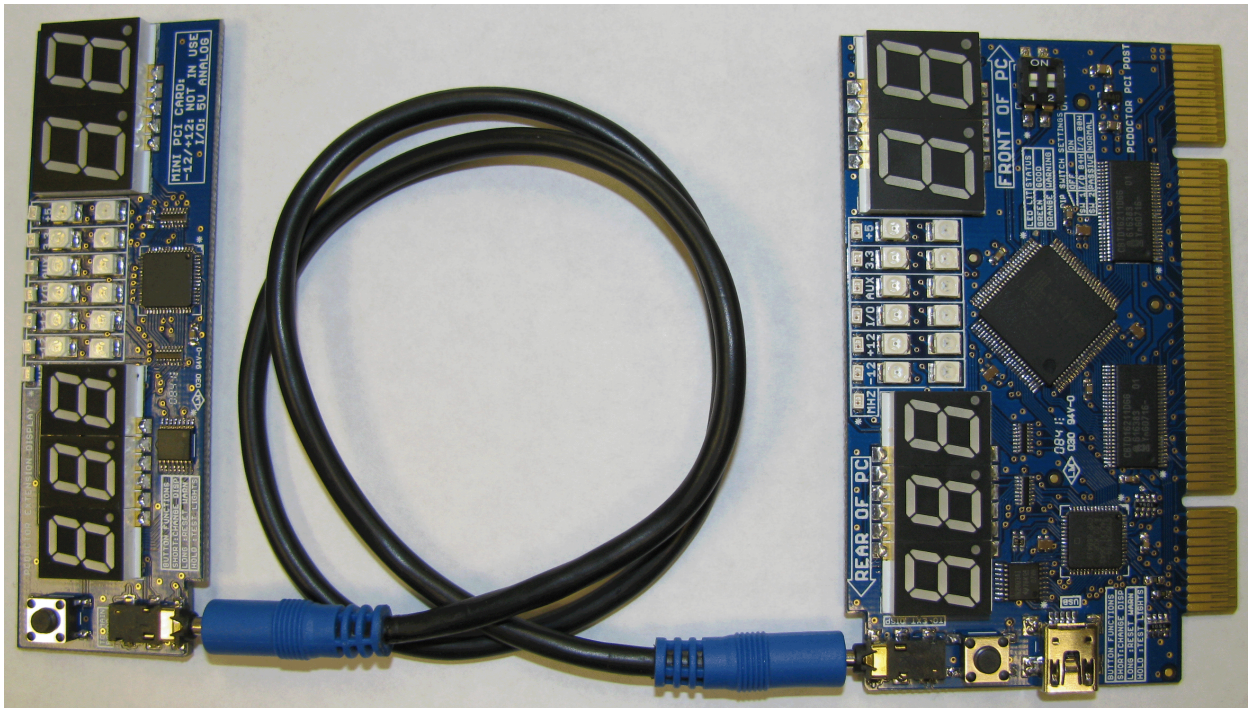


図 15 : PC-Doctor PCI POST カード

### PCI POST カードの使用方法

PCI POST(電源投入時の自己テスト)カードは、オペレーティングシステムを読み込む前のシステム BIOS (Basic Input/Output System)の状態を表すコードを表示します。BIOS がオペレーティングシステムの読み込みに失敗した場合、BIOS からの最後の POST コードは2桁の LED ディスプレイに表示されます。さらに、PCI POST カードはシステム および PCI バスクロック速度の電圧レベルを表示します。緑および黄色の LED(各バス電圧用につづつ)は、電圧レベルが PCI 規格で設定された範囲内であるかどうかを表します。

- 緑 現在の関連電圧は PCI 規格の範囲内。
- 黄色 関連電圧は PCI 規格の範囲外。ユーザがリセットするまで、この LED は点灯し続けます。
- 緑および黄色 現在の選択モードは許容範囲内ですが、以前は範囲外と検出。


小型の3桁 LED ディスプレイは、選択した測定値を表示します。現在の選択項目は、小さい黄色の LED で示されます。ボタンを押すと、現在の選択項目が変更されます。

また、切り替えスイッチを使用して、モードオプションを定義することができます。次のモードオプションがあります。

- スイッチ1 「1」と表示 POST コードの I/O ポートを監視します。既定設定は 80h で、大半のシステムで動作します。既定設定の使用中に POST コードが適切に表示されない場合、代替の I/O アドレスである 84h に設定を切り替えます。
- スイッチ2 「2」と表示 カードを アクティブまたは パッシブモードに配置します。アクティブモードでは、カードは I/O 80h への書き込み作業を監視し、それらを直ちに受け入れます。パッシブモードでは、POST カードは 80h への書き込み作業の受け入れを待機します。その他の POST カードがシステムにインストールされている場合は、パッシブスイッチ設定を使用します。

**⚠ 注意:** システムにカードを挿入したまま、動作モードを切り替えしないでください

### PCI 接続 POSTカードの使用方法

 **注意:** 静電気放電(ESD)は、マザーボード、コンポーネントおよびPCI POSTカードに損失を与える可能性があります。コンポーネントのインストールは常にESD制御ワークベンチで行うか、適切に接地された静電気防止のリストストラップのようなESD制御ツールを使用してください。カードを不正確に挿入すると、カードおよびシステムに損失が生じます

1. 付属のケーブルを使用して、PCI POSTカードに遠隔ディスプレイを取り付けます。
2. システムがシャットダウンしていることを確認し、PCI POSTカードを利用可能なPCIスロットに挿入します。

 **注:** 遠隔ディスプレイに関する注意書きMiniPCI POSTカード -12v/+12v 未使用 は、MiniPCI POSTカードのみに適応します。フルサイズのPCI POSTカードには適応しません。

3. システムの電源を入れ、2桁LEDディスプレイに表示されるPOSTコードを確認します。

POSTコードは、各PC製造元独自のコードです。これらのコードは、関連PCメーカーの技術サポートウェブサイトから取得することができます。

また、BIOS POSTコードのリストは、[Service Center 公式ウェブサイト](#)に訪問し、BIOS POSTコードリンクをクリックして検索することができます。

4. 遠隔ディスプレイまたはメインカード上のボタンを使用して、3桁LEDディスプレイに表示されている読み取りの詳細を選択します。LEDの最上段は、現在の読み取りを表示します。

次は、利用可能な詳細の選択です。

- **MHz** システムバス周波数をMHzで表示します。
- **-12V** -12V電源レールの読み取り。
- **+12V** +12V電源レールの読み取り。
- **I/O** I/Oバスの電圧は、システムにより5Vまたは3.3Vです。
- **補助** 補助電圧の読み取り(通常は3.3V)。
- **+3.3V** +3.3V電源レールの読み取り。
- **+5V** +5V電源レールの読み取り。

黄色のLEDが点灯すると、自動切り換えが動作しません。3桁LEDディスプレイに *rst* の文字が表示されるまでカードまたは遠隔ディスプレイ上のボタンを押すと、黄色のLEDを手動でリセットすることができます。

## PC-Doctor Service Center for DOS


---

Service Center for DOS は、ローレベルでのハードウェアテストおよびドライブ消去機能を提供します。

### Service Center for DOS の起動

---

Service Center for DOS の起動方法


 注: Service Center for DOS は DOS 上で実行しなければなりません。Windows オペレーティングシステムの DOS 画面では実行することはできません。

1. システムの電源を切ります。
2. が含まれている多目的 USB デバイスを利用可能な USB ポートに差し込みます。

多目的 USB デバイスが利用可能ではない場合、Service Center for DOS のブータブル CD からシステムを起動します。

3. システムを再起動します。

システムの起動直後に、Service CenterDOS版スタートアップメニューが起動します。

 注: USB デバイスから起動する場合は、システム BIOS を構成する必要があります。BIOS の構成に関する詳細情報については、システムまたはマザーボードの製造元にお問い合わせください。

### PC-Doctor Service CenterDOS版の実行

---

PC-Doctor Service Center for DOS (PC-Doctor DOSとしても知られる)は、インストールされているオペレーティングシステムに関わらず、システム上で診断を実行することができます。

次の3種類のメニューが利用可能です。 **AVAILABLE TESTS**、**AVAILABLE TOOLS**、および**SELECT LOG DRIVE**。メニューに表示されているドライブ文字に対応するキーを押して、テスト結果を記録するロケーションを選択します。例えば、Eのキーを押すと、E:のラベルが付いた仮想RAMディスクが作成され、そこにすべてテストログが格納されます。



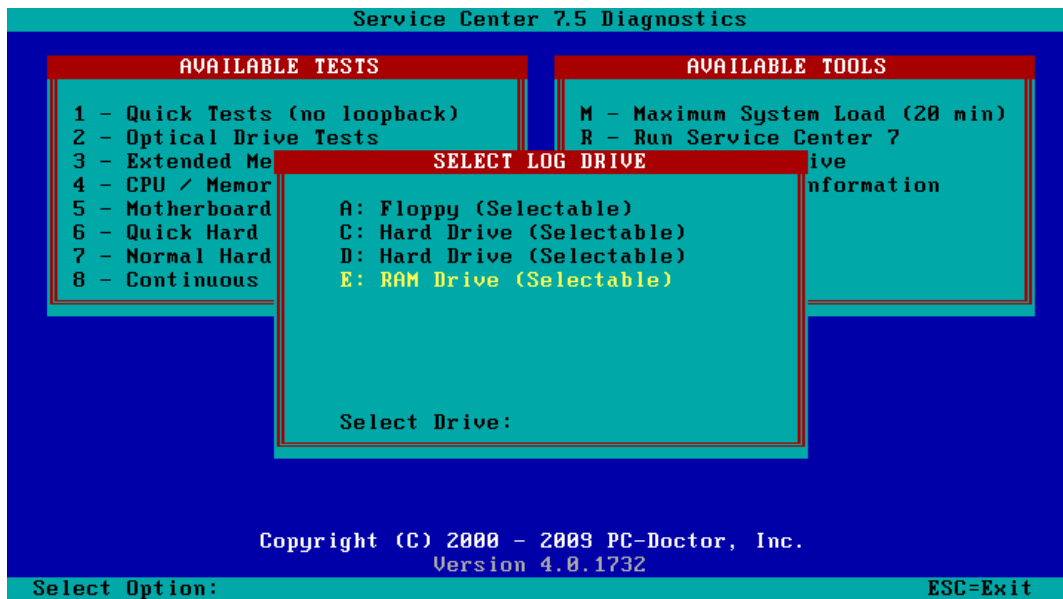


図 16 : PC-Doctor DOSスタートアップメニュー

ログオプションを選択後に、**AVAILABLE TESTS**または**AVAILABLE TOOLS**メニューにある他のオプションを実行することができます。

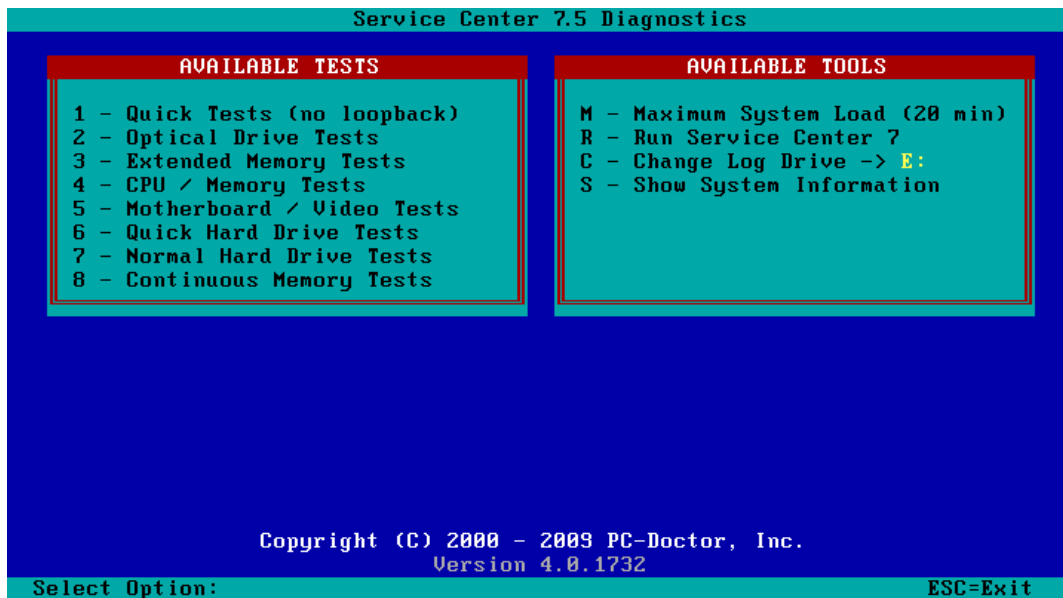


図 17 : 利用可能な起動メニューオプション

利用可能な機能は、次の動作を実行します。

- 注: 下記で説明されている診断に関する詳細情報については、「Service Center アドバンス ユーザガイド」を参照してください。

表 4 : 利用可能なスタートアップメニューオプション

オプション	定義
Quick Tests (no loopback)	システム正常性の基本 概要のために、一連のクイックテスト機能を実行します。クイック機能テストには、対話型テストは含まれていません。
Optical Drive Tests	光学ドライブデバイス上で、一連のテストを実行します。
Extended Memory Tests	メモリ障害テスト、アドレス障害テストおよびアドバンスパターンテストをシステムメモリ上で実行します。
CPU/Memory Tests	システム CPU およびメモリ上で、一連のテストを実行します。
Motherboard / Video Tests	システムマザーボード(CMOS、RTC クロック、IRQ コントローラなど)およびビデオアダプタ上で、一連のテストを実行します。
Quick Hard Drive Tests	次の項目含むハードドライブテストの小さなサブセットを実行します。コントローラ、ファンネルシーク、ランダムシーク、ランダム検証およびSMART ステータス。
Normal Hard Drive Tests	SMART ロングセルフテストを除く、利用可能なすべてのハードドライブテストを実行します。
Continuous Memory Tests	システムメモリ上でアドバンスパターンテストを 100 回反復します。
Maximum System Load (20 min)	一連の診断実行を行う負荷レベルテストは、テスト中の PC に負荷を掛けるように設計されています。
RunService Center 7	Service Center for DOS をスタンドアロンモードで起動します。
Change Log Drive	テストログ格納場所を指定します。
Show System Information	システムのハードウェア構成情報を表示します。

I/Oポートをテストするには、テストを実行する前に対応するループバックアダプタをポートに挿入します (ループバックアダプタに関する詳細情報については、[Service Center Loopback Adapters](#) も参照)。

- 注: CD-ROM ドライブ、ポインティングデバイス、PC カード(PCMCIA)、ネットワークカード、モデム、オーディオカード、SCSI デバイスなどのようなデバイスは、DOS で動作するために、DOS デバイスドライバが必要です。これらのデバイスをテストする場合、診断を実行する前にサポートされているデバイスドライバをメモリ内に読み込まなければなりません。

# PC-Doctor Service Center for Windows

---

Service Center for Windows は、Windows オペレーティングシステムでハードウェアテストを提供します。

## 設定およびインストール

---

### Service Center for Windows をインストールする前に

次は、Service Center for Windows を実行するために推奨されるシステム要件です。

- Microsoft Windows XP、Vista、またはWindows 7
- 約141 MBのハードドライブ容量
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

### インストール概要

インストール前に、開いているファイルを保存し、実行中の Windows アプリケーションを終了します。  
Service Center for Windows のインストール方法

1. Service Center Diagnostics CD をご使用の CD-ROM ドライブに挿入します。
2. オプションメニューから インストールオプション メニュー を1つ選択します。

### インストールオプション メニュー

Service Center Diagnostics CDを挿入すると、利用可能なインストールオプションが記載されているインストールオプションメニューが表示されます。このメニューからオプションを1つ選択します。下記を参照。

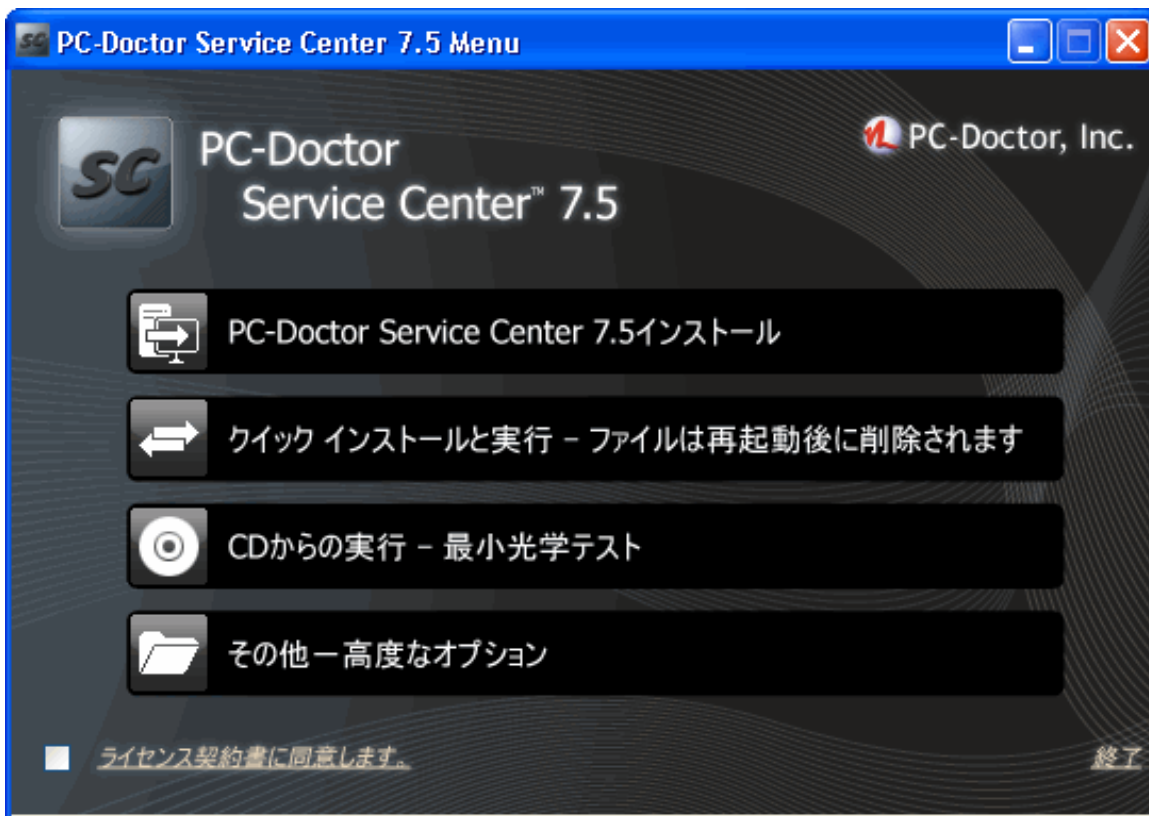



図 18: インストールオプションメニュー

利用可能なインストールオプションは、次のように機能します。

メニューオプション	機能
インストール	Service Center for Windows のインストールをPCに保持する場合は、このオプションを選択します。
クイックインストールと実行	これは、最速のインストールオプションで、Service Center for Windows を1回限り使用する場合のために設計されています。通常の修理センターでのテストまたは現場でのテストには、このオプションを選択します。このオプションは、Service Center for Windows を自動的にインストールおよび起動し、次回の起動時にService Center for Windows を自動的にアンインストールするように設計されています。
CDからの実行	Service CenterWindows版をCDから直接実行します。このオプションは必要なシステムファイルをインストールしますが、次回の起動時にこれらのファイルは自動的にアンインストールされます。
その他-高度なオプション	Service Center ユーザガイド、Service Center アドバンス ユーザガイドの表示、または多目的 USB デバイスの元の状態への復元を行います。

注: Service CenterWindows版をCDから実行すると、利用可能なCD-ROM/DVDテスト機能が制限されま  
す。

## 多目的 USB デバイスの復元ツール


 **注意:** 旧バージョンの多目的 USB デバイス上で、多目的 USB デバイスの復元ツールを使用しないでください。多目的 USB デバイスの復元ツールは、Service Center 7 および Service Center 7.5 の多目的 USB デバイス専用設計されています。この復元ユーティリティで Service Center 6 の多目的 USB デバイスの再投影を試行すると、多目的 USB デバイスに永久的な機能障害が生じます。

多目的 USB デバイスが破壊または消去された場合、またはバージョン7.5 for DOS の診断をバージョン7の多目的 USB デバイスに読み込ませる場合は、次の方法を使用して、多目的 USB デバイスを元の構成に復元することができます。

 **注:** Service Center 7 の多目的 USB デバイスを Service Center 7.5 で復元すると、更新された DOS 診断がデバイスに搭載されます。Service Center 7 の多目的 USB デバイスは、Service Center 7 で機能し続けます。

### 診断CDを使用した多目的USBデバイスの復元方法

1. 多目的 USB デバイスを利用可能な USB ポートに差し込みます。
2. Service Center for Windows の CD を挿入します。
3. インストールメニューで、その他-高度な オプションをクリックします。

 **注:** 光学ドライブの自動実行機能が無効になっている場合は、CD を参照し、Setup.exe を起動させます。

4. 多目的 USB デバイスの復元ツールを選択します。
5. 画面上の説明に従います。

ツールメニューオプションを使用した多目的 USB デバイスの復元方法を閲覧するには、[Restore the Multipurpose USB Device using the Tools Menu Option](#) を参照してください。

## Starting PC-Doctor Service Center

---


### Service Center for Windows の起動


#### Service Center for Windows の起動方法

1. 多目的 USB デバイスが利用可能な USB ポートに差し込まれていることを確認します。
2. スタート > プログラム > **PC-Doctor Service Center 7.5** > **PC-Doctor Service Center 7.5** に進みます。
3. PC-Doctor Service Center 7.5 プログラムリンクをクリックします。

### Service Center for DOS の起動

#### Service Center for DOS の起動方法

 **注:** Service Center for DOS は DOS 上で実行しなければなりません。Windows オペレーティングシステムの DOS 画面では実行することはできません。

1. システムの電源を切ります。
  2. 多目的 USB デバイスを利用可能な USB ポートに差し込みます。  
多目的 USB デバイスが利用可能ではない場合、Service Center for DOS のブータブル CD からシステムを起動します。
  3. システムを再起動します。  
システムの起動直後に、Service Center for DOS スタートアップメニューが起動します。
-  **注:** USB デバイスから起動する場合は、システム BIOS を構成する必要があります。BIOS の構成に関する詳細情報については、システムまたはマザーボードの製造元にお問い合わせください。

## PC-Doctor Service Center for Windows の実行

---

次は、Service Center for Windows の利用可能な機能において、ユーザインターフェイスの移動方法、テストスクリプトの作成およびレポートの生成のような重要機能の実行方法を説明しています。

### ユーザインターフェイス制御



Service Center for Windows は起動し、ホーム ペインを表示します。上部には、診断とツール、スクリプト編集、システム情報、レポート、またはマイリンク タブのような機能およびツールにアクセスするためのタブ列があります。上部付近には、 ボタンがあり、テスト中のシステムのスナップショットを撮影します。スナップショットに関する詳細情報については、[システムスナップショットの生成](#) 38 ページの参照してください。ホーム ペインの本文には事前定義したテストスクリプトへのリンクが含まれており、お気に入りの診断、メンテナンスツールなどへのリンクを組み込ませるようにカスタマイズすることが可能です。ホーム ペインの下部には、システム構成に関する短かいレポートが表示されます。Service Center はレポートをランタイムで収集し、レポートをファイルに保存または印刷することができます。 ボタンをクリックすると、システム情報概要に記載されているすべてのデバイスのテストを開始します。



図 19 : The Service Center for Windowsのホームページ

## 設定エディタ

Service Center for Windowsは、すべての設定の調整を行うための中央集中的な場所を提供します。設定の確認方法または変更方法

1. Service Center for Windows の画面上部にあるツールメニューの項目をクリックします。
2. ドロップダウンメニューの設定をクリックします。最初に表示される画面には、次の設定があります。

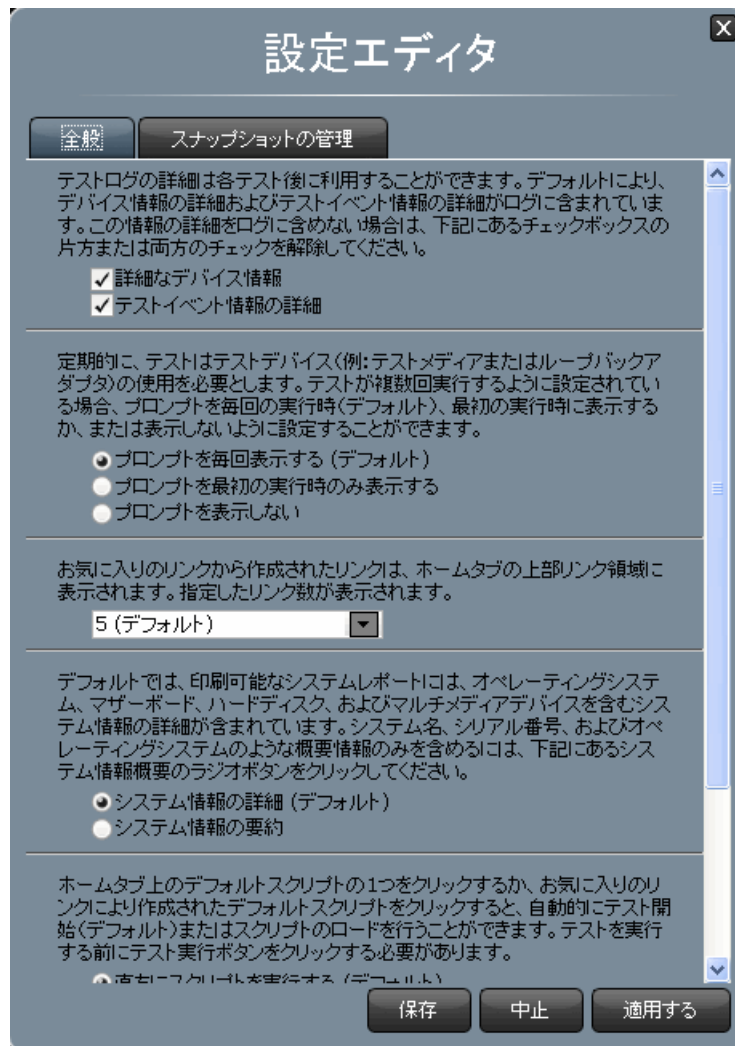


図 20 : Service Center for Windows のホームペイン

- a) 詳細テストログ情報 既定により、デバイスおよびテストイベントに関する詳細情報がテストログに含まれます。概要情報だけを含めてテストログファイルを短縮するには、表示されているいずれかのまたは両方のチェックボックスのチェックを外します。
  - b) テストデバイス プロンプト 既定により、Service Center for Windowsは、デバイスの必要時に毎回テストメディアまたはループバックアダプタのようなテストデバイスに関するプロンプトをユーザに行います。この動作を変更するには、表示されているラジオボタンをクリックします。
  - c) マイリンク に表示するリンク数 既定により、Service Center for Windowsは、ホーム画面のお気に入りのリンク領域にリンクを5つ表示します。ドロップダウンメニューを使用して、表示するリンク数を1から20の間で選択します。
3. 設定エディタ の下部にスクロールダウンします。次の設定が表示されます。



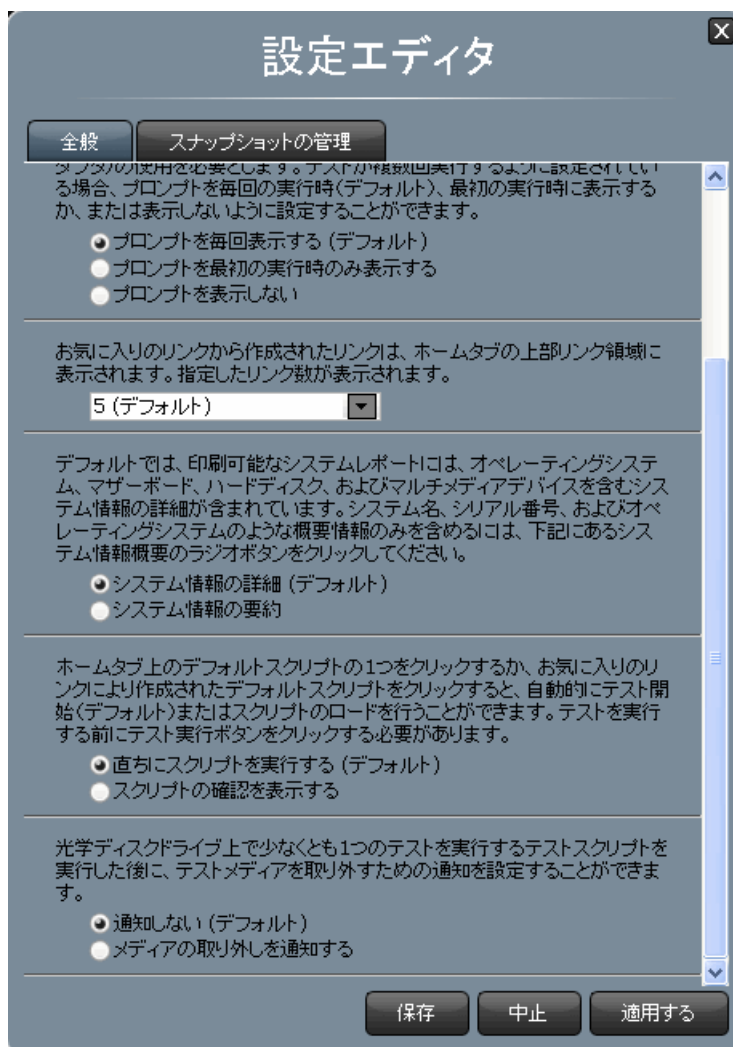


図 21 : Service Center for Windows のホームペイン

- a) 印刷可能なシステムレポート詳細 印刷可能なシステムレポートは、商標を付けてお客様に配布することができます。既定によるシステムの詳細情報を含め、システムに行った動作がシステムレポートに表示されます。概要情報のみを含めてレポートを短縮するには、システム情報概要のラジオボタンをクリックします。
  - b) スクリプト起動動作 既定により、スクリプトリンクがクリックされると、スクリプトは直ちに実行します。スクリプトの実行前に確認を要求するには、スクリプトの確認を表示する のラジオボタンをクリックします。
  - c) テストメディアの削除通知 既定により、Service Center for Windowsは、テスト完了時にテストメディアの削除をユーザに通知します。通知を受け取るには、メディアの削除を通知する のラジオボタンをクリックします。
4. スナップショットの管理 タブをクリックします。多目的 USB デバイスに格納されている全スナップショットが含まれたリストが表示されます。

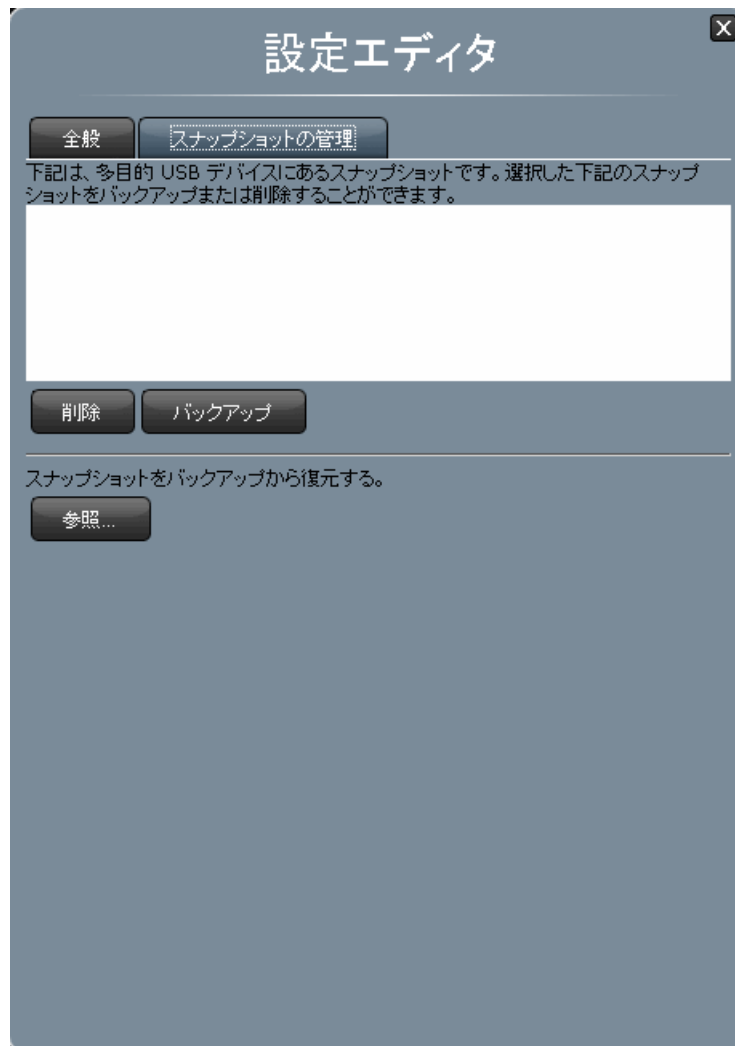


図 22 : Service Center for Windows のスナップショット管理ペイン

- a) スナップショットの削除またはバックアップ リスト内の全スナップショットには、既定によりチェックが入れています。削除ボタンをクリックすると、チェックが入れている全スナップショットが削除されます。または、バックアップ ボタンをクリックすると、チェックが入れている全スナップショットが別の場所にバックアップされます。
- b) スナップショットの復元 参照ボタンをクリックすると、スナップショットが格納されている場所へ移動して、多目的 USB デバイス上にスナップショットを読み込みます。

## ツールメニュー オプションを使用した多目的 **USB** デバイスの復元

**⚠ 注意:** 旧バージョンの多目的 USB デバイス上で、多目的 USB デバイスの復元ツールを使用しないでください。多目的 USB デバイスの復元ツールは、Service Center 7 および Service Center 7.5 の多目的 USB デバイス専用に設計されています。この復元ユーティリティで Service Center 6 の多目的 USB デバイスの再投影を試行すると、多目的 USB デバイスに永久的な機能障害が生じます。

多目的 USB デバイスが破壊または消去された場合、下記にあるいずれかの方法を使用して、多目的 USB を元の構成に復元することができます。

- 👉 注: Service Center 7 の多目的 USB デバイスを Service Center 7.5 で復元すると、最新の DOS 診断がデバイスに搭載され、Service Center 7 で動作し続けます。

1. PC-Doctor Service Center を開始します。
2. 多目的 USB デバイスを利用可能な USB ポートに差し込みます。
3. 画面最上部にある ツール メニュー項目をクリックします。
4. ドロップダウンメニューの 多目的 **USB** デバイスの復元 オプションをクリックします。
5. 注意のダイアログボックス内にある **OK** ボタンをクリックします。

## コマンドラインオプション

Windows のコマンドを発行するには、コマンドプロンプトを開き、PC-Doctor Service Center プログラムファイルに移動します。次は、基本のコマンド形式です。

```
sccui.exe -<first parameter> -<second parameter>
```

最初にスペースを空けて、次にダッシュを入れ、その後に各パラメータを入力します。次は、パラメータです。

### **-script <RelativePath\ScriptName>.xml**

このパラメータは、PC-Doctor Service Center を起動し、スペースの後に入力されているテストスクリプトを実行します。PC-Doctor Service Center プログラムファイルディレクトリからのスクリプトファイルへの関連パスが含まれている必要があります。

この例は、PC-Doctor Service Center を起動し、スクリプトディレクトリ内にある system.xml と呼ばれるテストスクリプトを実行します。

```
sccui.exe -script scripts\system.xml
```

### **-sdtl <FileName>**

このパラメータは、詳細なテストログを自動的に指定されたファイル名へ保存します。ファイル拡張子が指定されていない場合、または指定された拡張子が有効ではない場合は、レポートは HTML ファイルとして保存されます。有効なファイル名の拡張子は、HTML および TXT です。

- 👉 注: このパラメータは、-script parameter と併せて使用する必要があります。


この例は、PC-Doctor Service Center を起動し、スクリプトディレクトリ内にある system.xml と呼ばれるテストスクリプトを実行し、詳細なテストログを systemtestlog.txt と呼ばれるファイルに保存します。

```
sccui.exe -script scripts\system.xml -sdtl systemtestlog
```

### **-spr <FileName>**

このパラメータは、印刷可能なレポートを自動的に指定されたファイル名へ保存します。ファイル拡張子が指定されていない場合、または指定された拡張子が有効ではない場合は、レポートは HTML ファイルと

して保存されます。有効なファイル名の拡張子は、HTMLおよびTXTです。以前に、Windows ユーザーインターフェイスから選択された印刷可能なレポートアイテムが含まれます。


 注: このパラメータは、-script parameterと併せて使用する必要があります。

この例は、PC-Doctor Service Centerを起動し、スクリプトディレクトリ内にあるsystem.xmlと呼ばれるテストスクリプトを実行し、印刷可能なレポートをsystemtest\_pr.htmlと呼ばれるファイルに保存します。TXT形式は、ヘッダにある企業ロゴの保存のサポートはしません。

```
sccui.exe -script scripts\system.xml -spr systemtest_pr.html
```

### **-exit**

このパラメータは、指定されたその他のパラメータがすべて実行された後に、PC-Doctor Service Centerを自動的に終了します。

 注: このパラメータは、その他のパラメータと併せて使用する必要があります。

この例は、PC-Doctor Service Centerを起動し、スクリプトディレクトリ内にあるsystem.xmlと呼ばれるテストスクリプトを実行し、印刷可能なレポートをsystemtest\_pr.htmlと呼ばれるファイルに保存した後に、PC-Doctor Service Centerを終了します。

```
sccui.exe -script scripts\system.xml -exit -spr systemtest_pr.html
```

## 診断の使用

The 診断とツール ペインは、診断実行のための主な手段です。

### テスト結果およびテストログ記録

テストが完了すると、Service Center for Windows は、すべてのテスト実行、テスト実行結果およびエンジン終了コードを表示します。下記を参照。

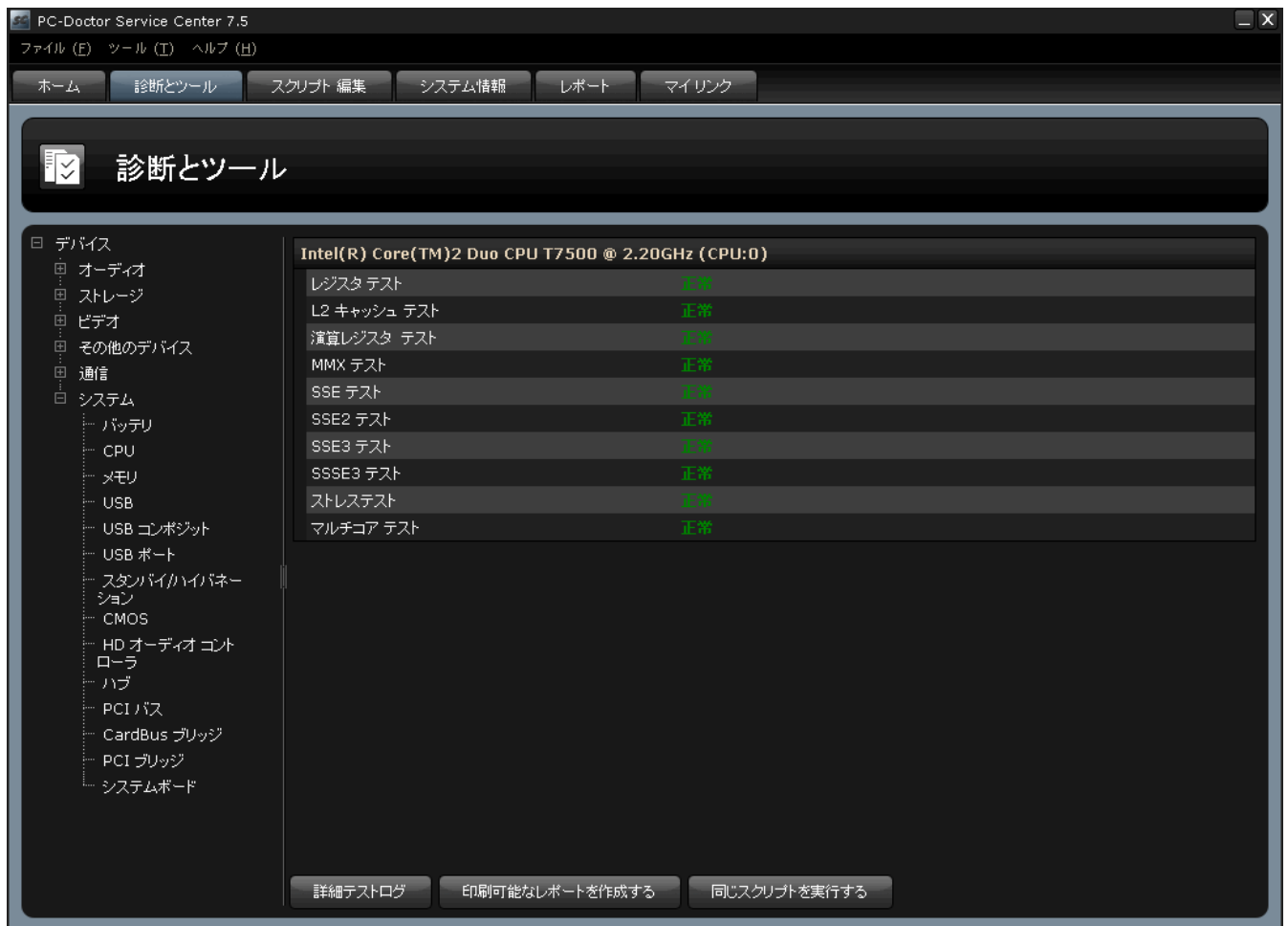


図 23 : テスト結果画面

すべてのテスト結果の詳細は、テストログに記録されます。テストログには、テスト開始および終了時刻、テスト結果、エンジン終了コードが含まれます。下記を参照。



図 24 : テストログ画面

## テストスクリプトの使用

テストスクリプトは、テストスクリプトの起動時に自動実行する一連の診断から構成されています。スクリプト編集により、指定のテストニーズに合わせる事が可能なカスタムテストスクリプトを作成できます。スクリプト編集を開くと、画面左側にデバイスリスト、画面右側にスクリプト作成領域が表示されます。下記を参照。

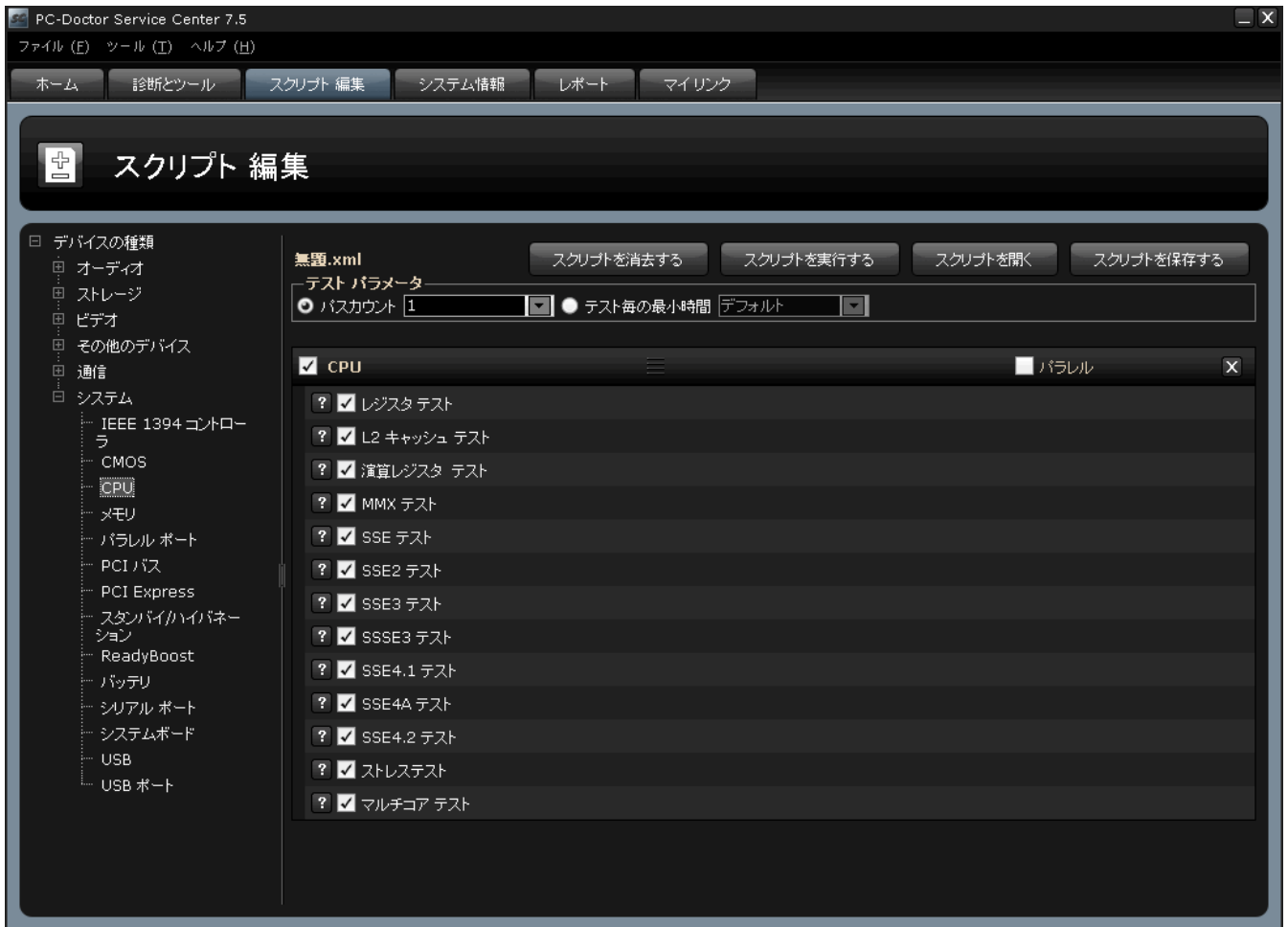


図 25 : スクリプト編集 ペイン

## テストスクリプトの作成

### テストスクリプトの作成方法

1. 左側のデバイスリストから、テストを行うデバイスをクリックして選択します。

デバイスは、次の6種類のカテゴリに記載されています。オーディオ、ストレージ、ビデオ、その他のデバイス、通信、およびシステム。デバイスをクリックすると、対応するテストまたはそのデバイス用のテストがテストスクリプト作成領域に表示されます。下記を参照。

### 図 26 : テストスクリプトへの診断追加

2. テストを行うすべてのデバイスを追加し終わるまで、この様式で続けます。
3. 不要なテストは該当するチェックボックスをクリックして無効にします。下記を参照。

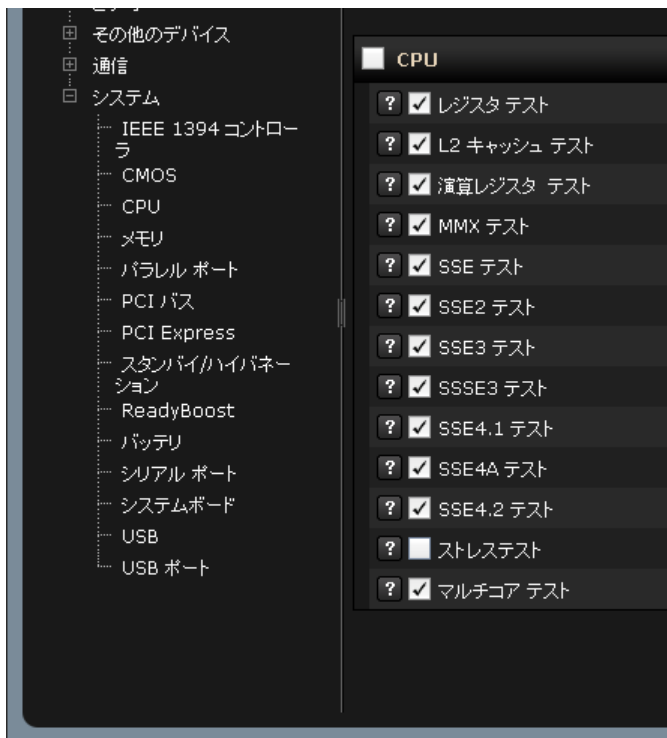


図 27 : テストスクリプトでのテストの無効化

4. テストセットを任意の場所にドラッグアンドドロップして、テストセットを任意の順番に変更します。
5. 平行のチェックボックスをクリックして、同時実行したいテストセットを指定します。下記を参照。

テストセットが連続的な順番でグループ化されている場合のみに、テストセットは並列実行されます。並列実行したいすべてのテストがまとまった配列で表示されるように、テストスクリプトを並べ替えます。



図 28 : 同時実行テストスクリプトの構成

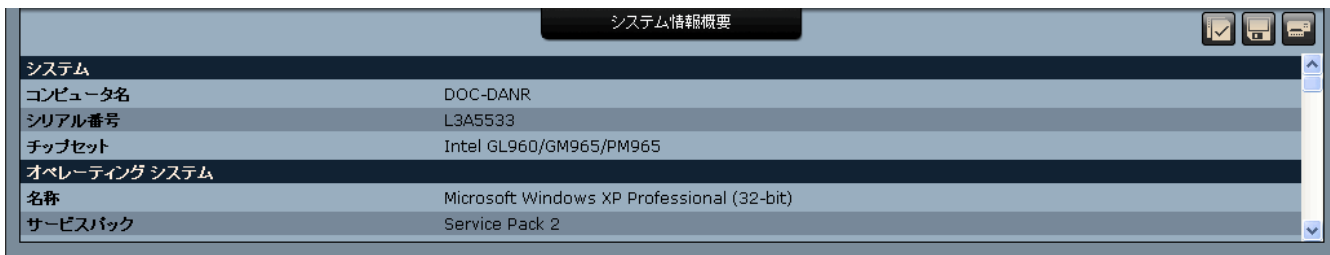
6. 希望する場合は、パスカウント または テストごとの最小時間のパラメータを適切なドロップダウンメニューを開いて変更します。
7. スクリプトの保存 ボタン をクリックします。  
保存ダイアログボックスが開きます。
8. スクリプト名を入力し、保存 をクリックします。  
スクリプトの保存には、異なる場所を指定することも可能です。



## システム情報の収集

システム情報は、PCのハードウェア構成、リソースおよびインストールされたデバイスに関する包括的な情報を提供します。収集したデータは、オペレーティングシステム設定の追跡、構成変更の管理およびリソース競合の解決のために使用することができます。

Service Center for Windowsは、プログラムの起動時にシステム情報概要を画面下部に表示します。ホームタブまたはボタンをクリックすると、この概要を常時閲覧することができます。また、レポートの右上部端にある該当ボタンをクリックすると、レポートを常時保存または印刷することができます。下記を参照。



システム	
コンピュータ名	DOC-DANR
シリアル番号	L3A5533
チップセット	Intel GL960/GM965/PM965
オペレーティングシステム	
名称	Microsoft Windows XP Professional (32-bit)
サービスパック	Service Pack 2

図 29 : 起動時のシステム情報概要

システム情報 ペインを通して利用可能なリンクは、システムの様々な観点を詳述するレポートへのアクセスを提供します。下記を参照。



図 30 : The システム情報 ペイン。

## 診断の実行

### 診断の実行方法

1. 診断およびツールタブをクリックします。



図 31 : 診断およびツールタブとカテゴリ リンク

左側にデバイスカテゴリの一覧、上部に診断実行のための基本パラメータ、右側に診断実行領域が表示されている 診断およびツールペインが開きます。デバイスカテゴリ リンクをクリックすると、デバイスの利用可能な診断の一覧が表示されます。テスト名の横にあるチェックボックスをオフ(クリック)に

すると、この一覧内のテストを無効にすることができます。テスト名の横にあるチェックマークは、テストが診断グループの一部として実行されることを表します。



図 32 : 診断およびツールペイン

2. パス カウント のドロップダウンメニューをクリックして、スクリプトの希望のパスカウントを選択するか、テストごとの最短時間のドロップダウンメニューをクリックして、スクリプトで実行する各テストの最短時間を選択します。パス カウントは、スクリプト全体の実行回数を指定します。各テストの最短時間は、スクリプトで実行する各テストの最短時間を指定します。下記を参照。

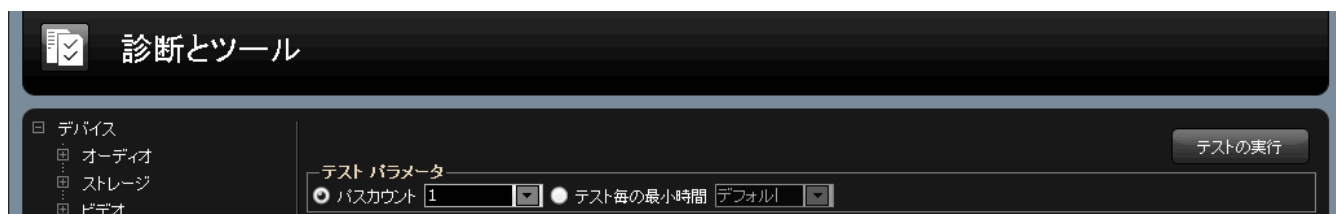


図 33 : 基本診断パラメータ

3. テストの実行ボタンをクリックして、テストを開始します。

診断は、一覧に表示されている順番にリアルタイムで実行します。下記を参照。

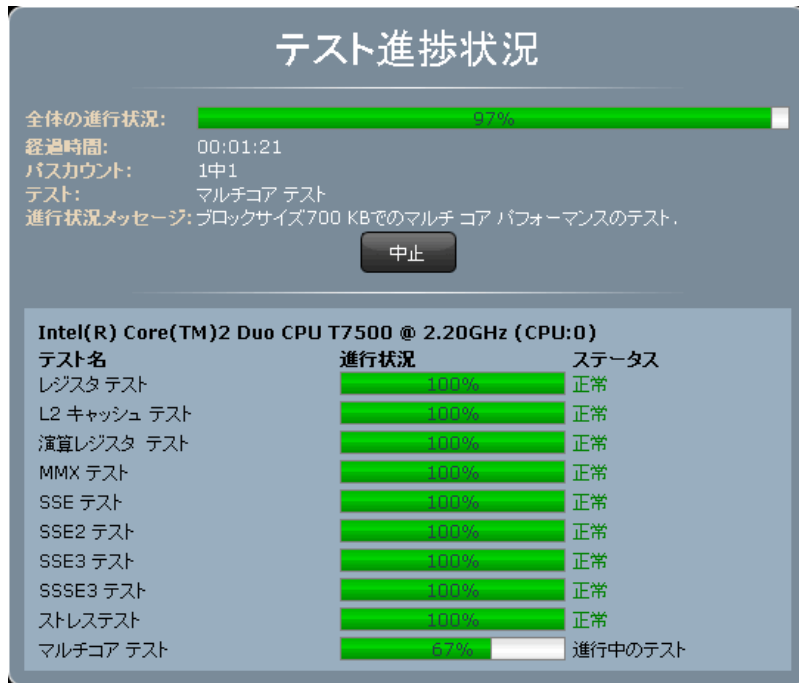


図 34 : テストの進行状況は、診断および ツールペインに表示されます。

#### システム情報レポートの生成

システム情報レポートにより、システムハードウェア構成、ネットワーク詳細、BIOS 詳細などを閲覧することができます。システム情報レポートの生成方法

1. システム情報 タブ をクリックします。
2. システム情報 のレポート種類 をクリックします。



図 35 : システム情報レポート

3. システム情報レポートで、**基本**、**詳細**、および **アドバンスビュー**から選択し、詳細のレベルを調整します。下記を参照。



図 36 : システム情報レポートレベルの詳細

レポートの生成後にボタンをクリックして、システム情報レポートを保存または印刷することができます。

### システムイベントレポートの生成

システムイベントレポートにより、システムパフォーマンスに影響を与えた可能性のある最近のシステムイベントを閲覧することができます。システムイベントレポートの生成方法

1. システム情報 タブ をクリックします。
2. システムイベント のレポート種類 をクリックします。

レポートの生成後にボタンからシステムイベントレポートを保存または印刷することができます。

### システムスナップショットの生成

システムスナップショットは、その他のシステム構成との比較または監査ハードウェアツールとして使用できるシステムのハードウェアプロファイルです。システムスナップショットの生成方法

1. システム情報 タブ をクリックします。
2. システムスナップショットを作成する リンク をクリックします。

保存ダイアログボックスが開きます。

3. システムスナップショットを保存するためのディレクトリを選択し、 **OK** ボタンをクリックします。

システムスナップショットが正常に保存されると、確認メッセージが表示されます。システムスナップショットはxmlとして保存され、標準テキストエディタで閲覧すると、次のように表示されます。

```
<snapshot datetime="20081029130140.109000-420" locale="en_sc5_"
version="7.0.4789.01">
  <device type="OperatingSystem"
    capabilities="OperatingSystem|Software" name="Operating
System" hwlocator="Operating System" oslocator="SW:OS"
DeviceUID="OperatingSystem:0"
    ModelUID="OperatingSystem">
    <property key="OSName"
module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
      <value value="Microsoft
Windows XP
Professional (32-bit)" />
    </property>
  <property key="ServicePack" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="Service Pack
2" />
  </property>
  <property
key="BuildNumber" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value
value="2600" />
  </property>
  <property key="SystemName" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
    <value value="TEST_SYSTEM" />
  </property>
  <property
key="UserName" module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="tester" />
  </property>
  <property
key="SystemDir"
module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="c:\windows\system32" />
  </property>
  <property
key="WinDir"
module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="c:\windows" />
  </property>
  <property
key="ProductKey"
module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX" />
  </property>
  <property
type="STRING">
    key="ProductID" module="pcdrsysinfosoftware"
    <value value="76487-OEM-0067582-57410" />
  </property>
  <property
key="SystemDefaultLocaleID" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
    <value value="0409" />
  </property>
</property>
```

```

        key="SystemDefaultLocale" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
</property>
        <value value="English (United States)" />
    </property>
    <property
        key="UserDefaultLocaleID" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
</property>
        <value value="0409" />
    </property>
        key="UserDefaultLocale" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
</property>
        <value value="English (United States)" />
    </property>
    <property
        key="CountryCode" module="pcdrsysinfosoftware"
type="STRING">
</property>
        <value value="1" />
    </property>
    <property key="CountryName"
        module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="United States" />
    </property>
    <property
key="DirectXVersion"
        module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="9.0c (4.09.00.0904)" />
    </property>
    <property
key="OSPlatform"
        module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="Windows" />
    </property>
    <property
key="OSMajorVersion"
        module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="XP" />
    </property>
    <property key="OSMinorVersion"
        module="pcdrsysinfosoftware" type="STRING">
    <value value="Service Pack 2" />
    </property>
</device>

```

図 37 : システムスナップショット

## 印刷可能なレポートの使用

レポート タブは、テストデータの管理に役立つカスタムレポート生成ツールへのアクセスを提供します。会社のロゴまたは企業カラーを統合して、レポートを組織的なデザインに変更することが可能です。さらに、現在のシステム構成でのシステムスナップショット(も参照)に関する比較レポートを実行することができます。下記を参照。

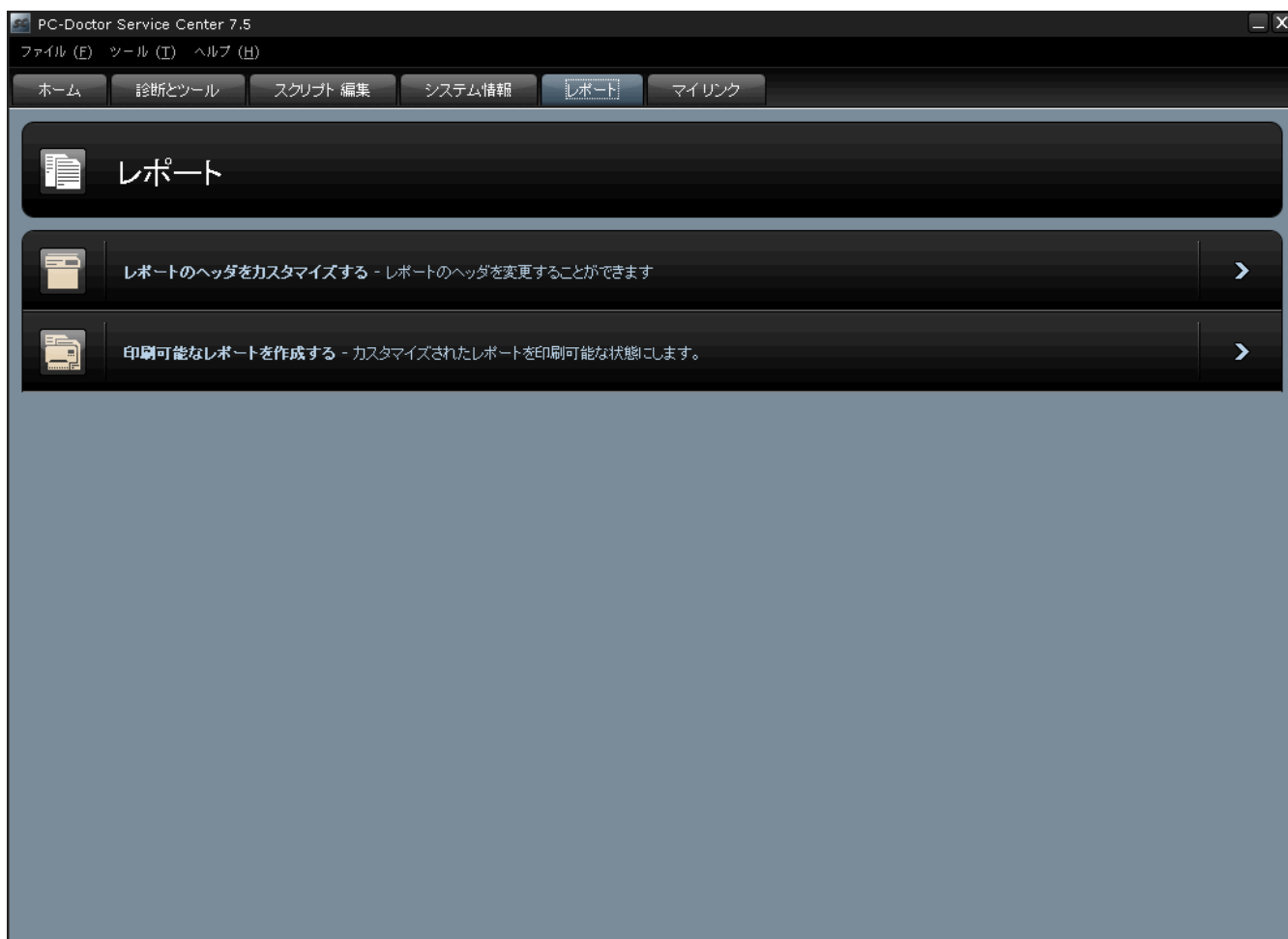


図 38 : レポートタブ

### レポートヘッダのカスタマイズ

次のコンポーネントを組み込ませるように、レポートを変更することができます。

- 会社名と所在地
- 技術者の名前
- 会社のロゴ

### レポートのカスタマイズ方法

1. レポート ペインで、レポートヘッダをカスタマイズする リンクをクリックします。
2. 会社名と所在地を適切な欄に入力します。
3. 技術者の名前を適切な欄に入力します。
4. 次の方法で、使用するロゴへのディレクトリパスを入力します。
  - a) 参照 ボタン をクリックします。
  - b) ロゴの場所を参照します。
  - c) ロゴを選択し、開く ボタンをクリックします。
5. 保存 ボタンをクリックします。下記を参照。





レポートのヘッダをカスタマイズする

会社名と所在地:  
Confident Computers, Inc.  
9805 Double R Blvd.  
Reno, NV 89521

技術者の名前:  
Joe Tester

会社のロゴ:  
参照... X

Confident computers Inc.

保存 中止

図 39 : カスタム レポートヘッダ情報の供給

#### 印刷可能なレポートの作成

レポートには、次の3種類のコンポーネントが含まれています。レポートヘッダ、システム情報およびテスト情報。レポートを生成すると、印刷前にレポートに組み込むコンポーネントを変更することができます。レポートの印刷方法

1. レポート ペインで、印刷可能なレポートを作成する リンクをクリックします。  
これにより、レポート作成 ダイアログボックスが開きます。下記を参照。



図 40 : 会社名と所在地、技術者の名前および企業ロゴを含むカスタムレポート

2. レポートのヘッダをカスタマイズする。

- a) ヘッダ タブ をクリックします。

レポートヘッダを組み込むには、ヘッダの組み込み チェックボックスにチェックを入れます。ボックスにチェックが入っていない場合、レポートヘッダは組み込まれません。

- b) システム情報 タブ をクリックします。

システム情報を組み込むには、システム情報の組み込み チェックボックスにチェックを入れます。このボックスにチェックが入っていない場合、システム情報は組み込まれません。

- c) テスト情報 タブ をクリックします。

テスト情報を組み込むには、テスト情報の組み込み チェックボックスにチェックを入れます。このボックスにチェックが入っていない場合、テスト情報は組み込まれません。

- d) スナップショット タブ をクリックします。

比較するスナップショットをクリックします。選択したスナップショットを組み込むには、スナップショット比較の組み込みチェックボックスにチェックを入れます。このボックスにチェックが入っていない場合、テスト情報は組み込まれません。

e) レポートの印刷または保存 タブ をクリックします。

スクロールダウンして、レポートに組み込まれる情報を確認します。

レポートをファイルへ保存するには、保存 ボタン をクリックします。レポートを印刷するには、印刷 ボタン をクリックします。

## マイリンクの使用

マイリンク タブは、インターネット上の役立つ情報およびリソースへのリンクを提供します。常時、リンクの追加または削除ができます。また、既存リンクの編集も可能です。下記を参照。



図 41 : マイリンクタブ

新しいリンクを追加

新しいリンクの追加方法

1. マイリンクタブをクリックします。
2. 新しいリンクを追加リンクをクリックします。下記を参照。



図 42 : 新しいリンクを追加

新しいリンクを追加ダイアログボックスが開きます。

3. 表示名の欄に、リンク名を入力します。  
名前は、マイリンク ペイン上に表示するためのものです。
4. リンクの種類を選択します。
  - リンクを外部リソース(例 ウェブページ)に作成する場合は、**URL**を選択して、ウェブアドレスの欄にアドレスを入力します。
  - リンクをローカルリソース(例 システム内のファイル)に作成する場合は、ローカルファイルを選択して、参照ボタンをクリックし、ファイルのロケーションを参照します。
5. 保存ボタンをクリックします。

#### 既存リンクの編集

##### リンクの編集方法

1. マイリンクタブをクリックします。
2. 編集するリンク上で、編集ボタンをクリックします。下記を参照。



図 43 : 既存リンクの編集

リンクの編集ダイアログボックスが開きます。

3. 必要に応じて、リンク情報を編集します。
4. 保存ボタンをクリックします。

# よくある質問およびトラブルシューティングに関するヒント

---

## Service Center for Windows のトラブルシューティングに関するヒント

---

### Service Center の正確なバージョンを使用していないと表示されるのはなぜですか

多目的 USB デバイス を利用可能な USB ポートに 挿入する必要があります。多目的 USB デバイスは、Service Center for Windows の実行中には、常に利用可能な USB ポートに差し込まれていなければなりません。

### Windows でのテスト結果は要調査でしたが、DOS では正常だったのはなぜですか

Windows でデバイスドライバが適切に構成されていない場合は、このようなことが頻繁に生じます。

### BIOS および SMBIOS から収集されたシステム情報が大幅に異なるのはなぜですか

BIOS システム情報レポートでは、指定デバイスと SMBIOS システム情報内で見つけた同一デバイスの情報比較に違いが生じることが度々あります。これは、SMBIOS のデバイス情報がデバイスベンダにより供給されているためです。BIOS および SMBIOS 間のデバイス情報に不一致が生じて、パフォーマンスには影響が無いと思われます。しかし、これは、BIOS ベンダまたはシステム(マザーボード)製造元が BIOS 情報が正確であることを確認するための追加処置を取っていないことを表す場合もあります。システムの再起動および BIOS への直接アクセスを行わずに、Service Center システム情報レポート内にある SMBIOS 情報を参照すると、正確な情報を取得することができます。

### テストを並列実行すると、Service Center の速度が非常に遅くなるのはなぜですか

メモリが128MB以下のシステムではメモリ領域が制限されているため、テストの並列実行を行うことができません。テストの順次実行は行うことができます。

### ハードドライブ パターンテストを試行すると、エラーが表示されるのはなぜですか

ハードドライブ パターンテストは、FAT または NTFS 形式のハードドライブ上でのみ実行することができます。未フォーマットのドライブ上では実行することができません。テストがドライブ上に空のセクタを検出すると、同様のエラーが表示される場合があります。

### Service Center を実行すると、xulrunner.exe がインターネットへのアクセスを試行するのはなぜですか

xulrunner.exe は、Service Center for Windows ユーザインターフェイスのコンポーネントです。インターネットへのアクセスの試行は、実際は xulrunner.exe がリストに記載されている内部通信ポートを開こうとしている動作です。xulrunner.exe がインターネットへのアクセスを試行しているにも関わらず、ファイアウォールがアクセスをブロックしている場合は、ユーザが安全にアクセスを許可することができます。

## Service Center for DOS のトラブルシューティングに関するヒント

---

「**xx is invalid value for the /BA:switch.**」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか

/ba:xx スイッチ で無効な数字を指定しているという意味です。「このエントリは入力されていません、もう一度選択してください」というエラーメッセージが表示される場合も同様のことを意味します。1から10までの番号(既存のオーバレイに対応する)を選択しなければなりません。指定するオーバレイが存在することを確認してください。

多目的 **USB** デバイス を取り外すと、**Service Center for DOS**がシャットダウンするのはなぜですか

Service Center for DOSの起動後に、多目的 USB デバイス を取り外すと、認証を再構築するためにシステムを再起動する必要があります。

「**Unknown command line option.**」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか

無効なコマンドラインスイッチを指定しているという意味です。サポートされているコマンドラインスイッチに関する詳細情報については、「Service Center アドバンス ユーザガイド」も参照してください。

「**One or more diagnostic tests in your batch file produced a failure. Review the test log for additional details.**」というエラーメッセージは、何を意味しているのですか

バッチファイル内の1つまたはそれ以上の診断テストが失敗したことを意味します。追加詳細については、テストログを確認してください。/t コマンドラインスイッチで正しくないテストIDを使用した場合にも、このエラーメッセージが表示されます。テスト ID の完全なリストについては、「Service Center アドバンス ユーザガイド」も参照してください。

**RAM** ディスク(**vdisk.sys**)の使用時に、ハードドライブにアクセスできないのはなぜですか

この問題は、FAT32 およびNTFS ディスクパーティションのみに発生します。DOS は FAT32 または NTFS パーティション情報にアクセスできないため、Service Center for DOS の論理ドライブ情報モジュールは、この情報を反映しません。ただし、Service Center for DOS のハードドライブテストは、この問題により影響を受けません。

デバイスによっては、なぜ**N/A**と報告するのですか(モデム、**NIC**、オーディオ、**SCSI**)


Service Center for DOS では、デバイスドライバを最初にインストールしていないと、テストを実行できないデバイスがあります。Service Center for DOS の診断テストが、デバイスは **N/A** と報告した場合、適切なデバイスドライバ(またはインネーブラ)がインストールされていることを確認し、テストを再実行してください。多くの場合、Service Center for DOS は、デバイスのテストを実行できない場合でもデバイスのシステム情報を供給することは可能です。**Hardware Info** メニューにある **PCI Info**、**PnPISA Info**、**PCMCIA Info**、および **DMI Info** のカテゴリは、ドライバがインストールされていても、インストールされていなくても、デバイス情報を報告します。

## Diskette Drives テストの実行後に、フロッピーディスクのコンテンツが消去されているのはなぜですか

ディスクドライブカテゴリには、次の2つの破壊性のあるサブテストが含まれており、データ損失が生じます。 *Linear Write/Read* および *Linear Write/Random Read* テスト。これらのテストは、ディスク上のデータを破壊します。データ損失の可能性を説明する警告メッセージを表示するには、これらのテストを手動で選択しなければなりません。Diskette Drives Linear Write/Random Read テストおよび Linear Write/Random Read テストの実行時には、空のフォーマット済みディスクを使用してください。

## Surface Scanのハードディスクユーティリティの実行中に、データが削除されるのはなぜですか

Surface Scanのハードディスクユーティリティには、2つのサブテストである *Write/Verify* テスト および *Write/Read* テストがあり、通常はデータを破壊せずにテストを実行します。ただし、PCが電力を失った場合またはテストの実行中にPCを再起動した場合は、データが損失する可能性があります。Service Center for DOSでは、これらのテストが選択されると、データ損失の可能性に関する警告を表示します。

 **危険:** 上記のいずれかのテストの実行中には、システムの電源切断または再起動を行わないでください

## Surface Scanの読み取りテストが失敗した後でも、ハードディスクドライブがエラーなしで動作するのはなぜですか

これは、誤検出を生成することで知られるチップセットをシステムがこのテストで使用しているためです。ハードドライブ Surface ScanのRead テストに加え、この問題は Surface Scan Read/Write テストおよび Drive Cache テストにも影響を及ぼします。この問題に影響されると検証されているチップセットは、次の製品などです。

- nVidia
- ATI
- nForce2
- nForce3
- VIA
- KM400
- VT8623 Apollo CLE266

## LS-120、HiFD または Jazz ドライブを検査するには、どの診断を使用すれば良いですか

Zip テストを使用すると、すべての大容量ディスクドライブ Zip、LS、HiFD、Jazz が列挙および検査されます。

## 多目的 USB デバイス 上にある空のディレクトリを削除できないのはなぜですか

これは、Windows の長いファイル名を参照する DOS 内のファイルを削除した可能性が高いと思われます。DOS は、長いファイル名をサポートしません。長いファイル名を8文字以上のファイル名または3文字以上のファイル拡張子で定義することができます。DOSが長いファイル名を検出すると、DOSのファイル名規格をサポートする名前に変更します。これは、DOSがファイル名を読み取ることができるように、ファイ

ル名の最初の7文字を維持し、ファイル名が切り捨てられたことを表すために、チルダ~のシンボルを最後に追加することを意味します。

DOSがこの方法でファイルを切り捨てる場合、DOSは本質的にファイルを複数のポインタに分けるため、ファイル名が切り捨てられていても、Windowsはファイルを認識することができます。Windowsでファイルを削除すると、Windowsはファイルを認識するだけでなく、すべてのポインタも単一ファイルとして認識します。しかし、DOSでファイル名を切り捨てられたファイルの削除を試行すると、DOSはファイルのみを認識するため、ファイル名ポインタは無視され、ディレクトリ内に残されたままになります。これは、DOSでのディレクトリの削除、およびWindowsでのアクセス不能なファイル名ポインタの削除を禁止します。

多目的USBデバイス上にある切り捨てられたファイル名を持つファイルを削除する場合、Windows内からファイルを削除してください。切り捨てられたファイル名を持つファイルをDOSですでに削除し、ディレクトリ構造を復元する必要がある場合、多目的USBデバイスの復元ツールを使用して、ディレクトリ構造を元の状態に復元します。多目的USBデバイスの復元ツールに関する詳細情報 [Install Options Menu](#) も参照してください。



## 詳細情報

---

### 連絡先

PC-Doctor, Inc  
9805 Double R Blvd. Suite 301  
Reno, NV 89521  
電話: 775-336-4000  
ファクス: 775-336-4099  
電子メール: [PC-Doctor電子メールサポート](#)  
ウェブサイト: [PC-Doctor公式ウェブサイト](#)

# 索引

## A

AVAILABLE TESTS 16  
AVAILABLE TOOLS 16

## B

BIOS 14, 21, 36, 45

## C

COM 6

## D

DOS 4, 6, 16, 19, 21, 45

## I

I/O 6, 14, 16

## L

LED 4, 12, 13, 14

## M

Microsoft 4, 19

## N

NIC 6

## P

PC-Doctor 4  
PCI 14  
PCI POST カード 4, 13, 14

## S

SELECT LOG DRIVE 16  
SMBIOS 45

## U

USB 4, 16, 19, 21, 26, 45

## W

Windows 4, 6, 19, 21, 26, 45  
Windows PE 21

## X

xulrunner.exe 45

## い

インターネット 43

## お

オーディオ 31  
オーディオ ポート 6  
オーバレイ 45

## か

カスタム レポートヘッダ 40  
カスタムレポート 39

## し

システム 31  
システムイベント 38  
システムスナップショット 38  
システム情報 4, 16, 22, 33, 36, 38, 41, 45  
システム情報の構成 41  
シリアル ポート 6

## す

スクリプト編集 4, 22, 30  
スタートアップメニュー 16  
ストレージ 31

## そ

その他のデバイス 31

## て

テスト ID 45  
テストスクリプト 30, 31  
テストセット 31  
テストデバイス 4  
テストメディア 12  
テストログ 28  
テスト結果 28  
テスト情報の構成 41

デバイスカテゴリ 34

と

ドングル 4

ね

ネットワーク 6

は

ハードウェア情報 45

バッチファイル 45

パラメータ 31, 34

パラレル 31, 45

パラレルポート 6

パワー サプライ テスター 12

パワーサプライ テスタ 4

パワーサプライ テスター 4

ひ

ビデオ 31

ふ

ブータブル CD 16

へ

ヘッダの構成 41

ほ

ホーム 22, 33

ま

マイリンク 22, 43, 44

マザーボード 12, 21

ゆ

ユーザインターフェイス 45

ユーザインターフェイス制御 22

り

リニア書き込み/ランダム読み取り 45

リニア書き込み/読み取り 45

る

ループバック アダプタ 4

ループバックアダプタ 4, 6, 16

れ

レポート 22, 33, 36, 38, 39, 40, 41

ろ

ローカル リソース 43